

令和7年度 施設自己評価



園名		ロータスキッズスクエア	評価日	令和8年3月31日
評価基準		A(大変優れている): 施設全体で高い意識を持って取り組み、素晴らしい成果や独自の工夫が見られる状態 B(適切である): 計画通りにしっかりと実施されており、子どもたちが安心して過ごせる安定した状態 C(改善が必要): 取り組んでいるものの、さらにより良くしていくための課題や見直す点がある状態 D(早急な対応が必要): 基準に達しておらず、子どもたちのためにより良い環境へ向けた早急な対応や改善が必要な状態		
No	項目	内容	評価 (A/B/C/D)	意見・改善案
1	園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている。	A	法人の理念に基づき、子どもたちの発達過程を踏まえた全体的な計画をもとに教育・保育を行っている。指導計画の作成にあたっては、子ども一人ひとりの発達状況やクラスの実態について職員間で共通理解を図りながら進め、子どもの姿や目標について話し合う機会も設けている。概ね適切に実施できているが、今後も職員間での振り返りや意見交換を大切にしながら、園全体で計画を見直し、より実態に合った教育・保育の充実に努めていきたい。
2		全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者等が持っている。	B	
3		指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	A	
4		子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態などについて職員間で話し合う機会を設けている。	B	
5	子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している。	A	子ども一人ひとりの人格を尊重し、安心して過ごせる環境づくりを大切にしながら保育を行っている。子どもの思いや気持ちに寄り添い、そのらしさを大切にしたり関わりを心掛けている。不適切な保育を防ぎ、子どもの最善の利益を第一に考えた保育を継続し、子どもの権利を尊重する意識をさらに高めた教育・保育を行ってきたい。
6		個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している。	A	
7		保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	A	
8		子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している(3歳児以上)。	A	
9		保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない。	B	
10	愛着形成	子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている(0・1・2歳児)。	A	子どもたちとの信頼関係を築き、安心して過ごせる関係を築いている。家族の様子など一人ひとりにあわせて生活リズムに合わせた、きめ細やかな関わりをさらに強化していきたい。
11		保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	A	
12		子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている。	A	
13	環境	各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	B	保育室内外の整理整頓、安全点検をしっかりと実施し、安心して過ごせる環境づくりに努めている。興味や発達段階に合わせ、遊びの環境構成、見直し、子どもたちが主体的に学べる環境づくりを工夫していく。
14		各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	B	
15		施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	A	
16	健康・安全	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	A	感染症やアレルギー対応のマニュアルの内容は職員研修等で取り上げ全職員が熟知し、施設全体で高い意識をもって安全管理に努めている。また、食育計画に基づいた活動にも独自の工夫を行い、子どもたちの取り組みの様子は積極的に発信に取り組む。
17		定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している。	A	
18		子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる。	A	
19		保健(衛生管理・感染症対策等)に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	B	
20		アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	B	
21		家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる。	A	
22		乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる。	A	
23		全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている(職員の参画のもとに作成している)。	B	
24		一人ひとりの子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	B	
25		長期欠席の子ども状況把握をしている。	A	
26	教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている。	A	様々な研修を通してより良い教育・保育を提供するため、職員の質、保育の質向上に努めている。日々の保育の振り返りや情報共有を行い、子どもの姿を基にした保育の改善に取り組んでいる。今後も保育者一人ひとりの専門性を高め、園全体として教育・保育の質の向上に努めていく。
27		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を十分に理解し、向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	B	
28		社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている。	B	
29		教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができている。	B	
30		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている。	A	
31		保育者等の自己評価結果などに基づき施設長と職員での話し合いを実施している。	B	
32	幼保小連携	児童票・児童要録・幼保小連携計画などを作成している。	A	小学校への円滑な接続を意識しながら子どもの育ちを支えるとともに、一人ひとりの発達や特性に応じた関わりを大切にしている。必要に応じて関係機関と連携しながら、子どもが安心して生活できる環境づくりに努めている。概ね適切に取り組めているが、今後も小学校との情報共有や連携を大切にするとともに、職員間で子どもの姿を共有しながら、一人ひとりに応じた支援の充実に努めていきたい。
33		小学校進学するにあたっては小学校へ児童要録を送付、連絡会議等にも出席し、小学校との情報共有を図る。	A	
34		0・1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	B	
35	特別支援	記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関(地域の保健センター、臨床心理士等)の助言を受けている。	A	日々の対話や保育参観を通して、保護者様と子どもの成長を喜び合える関係が築けている。地域の子育て支援情報の発信など、保育園としての役割を意識し、今後も地域に開かれた安心できる施設づくりを継続する。
36		子どもの様子で気になることは関係機関に報告している。	B	
37		地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭と関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	B	
38	保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	A	
39		子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている。	A	
40		第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	A	
41		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている(アンケート・行事等)。	A	
42	健康・安全(事故防止)	安全計画(児童の安全を確保するための計画)を策定し、見直し・周知・訓練を含めて運用している。	A	子どもが安全で安心して生活できる環境づくりを大切にし、健康管理や安全対策、防災・危機管理に取り組んでいる。また、保護者からの意見や要望には誠実に対応し、苦情解決の仕組みや個人情報保護の取り扱いについても適切に行うよう努めている。自己評価や第三者評価を通して保育の振り返りを行い、園運営の改善に活かしている。概ね適切に実施できているが、今後も職員間での情報共有や意識向上を図りながら、安全管理体制の充実と保育の質の向上に努めていきたい。
43		事故・ヒヤリハットを分析し、再発防止策を具体化して改善の進捗を確認している。	A	
44	苦情解決・個人情報保護	苦情解決体制(受付・対応・記録・再発防止)を整備し、保護者へ周知して適切に運用している。	B	
45	第三者評価・自己評価の活用	自己評価結果を踏まえた改善計画を作成し、結果の公表(または保護者への説明)を行っている。	B	
46	防災・危機管理	災害時・感染症流行時等の事業継続(BCP)や連絡体制を整備し、定期的に点検している。	A	
考察		自己評価を通じ、高砂福祉会の理念に基づいた「子ども一人ひとりに寄り添う保育」が園全体で概ね実践できている。特に保護者様との信頼関係構築においては良好な成果を感じている。一方で職員間の学び合いや専門スキルの向上には、まだ伸びしろがあると考えている。若手職員が多く活気がある反面、全体的な計画の深い理解や臨機応変な対応については、リーダー層からのより細やかなフォローが必要だと感じている。次年度は、「チーム保育」をさらに体現できるように、職員間のコミュニケーションとフィードバックの機会を増やし、互いに助け合い、共に学び合える風土を定着させていきたい。		